

[所 感]

長崎市議会議員 梶村 恒男

福州市友好都市提携30周年記念訪問団に参加して

8月23日、午後5時30分長崎空港を出発。私にとって今回の福州市への訪問は6年ぶりになるので、長崎空港を飛び立つ時から、この6年間で福州市がどのように成長、発展しているだろうかと興味いっぱいの出発になりました。

福州空港に近づくにつれ、海、河に接した空港の広大な敷地は交通拠点の可能性を強く感じました。山も緑がっぴいで飲料に適した水が豊富で、福州市は福がっぴいで将来の発展の可能性を秘めた福がっぴい充満している都市です。

8月24日、閩江公園にて記念植樹、6年前は公園敷地は荒造成して苗木を植えて公園としてスタートしたところでしたが、訪れてみて木々は大きく森に変わり、きれいな草花が色とりどりに咲き乱れてスケールの雄大さに感銘を覚えました。ゆっくりと時間をかけて、本物を造り上げていく福州人の懐の深さを感じます。

夕方からは激しい雨の中を閩江ナイトクルーズに参加、ライトアップされた福州市の夜景を満喫。ライトアップのカラーも日本とは違って鮮やかさを感じました。

8月26日は、上海万国博覧会を見学、その会場敷地の広いこと広いこと、さすがは中国と感心させられます。

行例に並んで入館するも心が重いので、丁度歩いていたら「孫文と梅屋庄吉展」が開かれていたので入ってみる。長崎県の観光地がテンポ良く紹介されて新鮮な気持ちで長崎再発見でした。

中国「建国の父」革命家・孫文と長崎生まれの風雲児、梅屋庄吉との命をかけた男の友情を描いていて、始めて梅屋庄吉を知り、長崎にもすごい先輩がおられたのだと胸が熱くなりました。龍馬伝の次は孫文と梅屋庄吉が長崎中、日本中にブームが到来すると確信しました。

上海は国際都市として大発展をしておりますが、ホテルの水道をみて暗い気持ちになりました。カビ臭くて飲めないし、風呂に入っても臭いのです。

中国は世界一の成長力を誇っているとは言われながらも、いびつな形での成長なので、日本のようにバランスのある発展はまだまだ時間がかかりそうです。

